

## 第 619 回：なぜ大学生はレポートを書かされるのか（DM）

みなさま、こんにちは。LA 毎週月曜 14：00~17：00 担当、博士課程（後期）の DM です。

今回は、そもそもレポートとは何か、どうして大学生はこうもたくさんのレポートを書かされるのか、ということについて、説明していきたいと思います。

エッセイ、レポート、そして学術論文などといった、広い意味での「論文」とは、「読者に自分の主張を述べ、それを論証し、説得する型式」です（小熊 2022：27）。「論証」という言葉に馴染みがなければ、「証明」に置き換えてください。つまり、具体的な根拠を挙げながら、自分の意見を述べていくのが、論文の本分です。では、その「型式」とはどんなものか、具体的に見ていきましょう。

まず、エッセイとは、「序論・本論・結論」、すなわち「①自分の主張を述べ、②論拠を示して論証し、③自分の主張の妥当性を確認する」という形式をとった文章のことです（小熊 2022：53-54）。このエッセイという形式が、論文の基礎の基礎であります。「論拠」という言葉に馴染みがなければ、「根拠」や「データ」に置き換えてもよいでしょう。根拠のある意見を適切な順序で述べる、というのが肝心です。

レポートは、エッセイの発展型です。すなわち、エッセイの「論証の部分、調査した事実を論拠にしながらい行形式」のことです（小熊 2022：54）。レポートでは、「文献や調査や実験」（小熊 2022：41）に基づいた論拠を使わなければなりません。この点において、レポートは、エッセイよりも作成が大変になるとはいえ、より科学的な、より客観的

な主張を可能にするものだと言えるでしょう。

学術論文は、ここまでの型式（エッセイ、レポート）に、「自分の研究のどこが新しいのか、自分はどのように調査をするのか」という説明が加わった文章です（小熊 2022：54）。学術論文を書くためには、自分の研究の新しさを先行研究との結びつきの中で証明し、しかも自分の調査方法の必然性まで説明する必要があるわけです。

どの型式にも共通しているのは、根拠のある意見を述べる、ということで、レポートは、その学術版の基本型、とも言えるでしょう。

とはいえ、大学生の大半は学者を目指しはしません。それなのに、どうしてこんなレポートなんて代物を大学生は書かされるのでしょうか？

それは、既に述べたように、レポートを書くことで、説得力のある意見を述べる技術を身につけることができるからです。自分の意見を明快に述べる技術は、学者はもちろん、多くの社会人にも求められるものです。それこそ、企画書やプレゼンテーションを作成する際に必要になってくる。そういうわけだから、未来の社会人である大学生は、レポートを、ある種の訓練として書かされる、というわけであります。たとえ学問が苦手であろうとも……

というわけで、今回の LA 通信はここまでです。今回の内容については、小熊英二の『基礎からわかる論文の書き方』第 1 章「論文とは何か」が詳しいです。関心のある方は、ぜひ一読ください。

次回は、レポート作成の全体像について、

## 第 619 回：なぜ大学生はレポートを書かされるのか（DM）

簡単に説明していきたいと思います。みなさま、何とぞよろしく願いいたします。

### 引用文献

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』  
（講談社現代新書 ; 2660）講談社、2022 年：  
K2660、閲覧室入口正面